

第10回 長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関するモニタリング部会 議事要旨

1. 日 時 : 令和8年6月25日(木) 14:20~15:40
2. 場 所 : TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口
(7階 バンケットホール7B会議室)
3. 出席者 : 松尾部会長、石田委員、木村委員、辻本委員、藤田委員
4. 審議内容 : フラッシュ操作に関するこれまでの調査結果報告と今後の計画

【議事要旨】

令和7年度の長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する調査結果と今後の調査計画について審議を行った。

初めての堰下流域での実施も含めたモニタリング調査結果について、フラッシュ操作の操作パターン毎の効果特性を確認できたことから、引き続き令和8年度の更なる弾力的運用の試行運用及び調査を継続することを了承した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

- ・フラッシュ操作方法について、左岸と右岸のゲートに分けて交互で操作することになった経緯や理由を整理しておくこと。
- ・フラッシュ操作による影響について、堰下流では河床形状や揖斐川合流による横断方向の流動にも着目して評価すること。
- ・フラッシュ操作とそれに伴う堰上下流の水質等変化について、データを相互に関連付けた評価・分析を行うこと。
- ・堰上流の溶存酸素や堰上下流の底質の経年変化分析にあたっては、河口堰の運用開始前の状況や、上流域の下水道整備等による流入栄養塩低下にも着目して整理すること。
- ・これまで、堰上流の水質保全を目的に、塩水が侵入しない範囲内で、平常時の越流流下に加えて、一時的に堰からの流下量を増大させる「フラッシュ操作」を実施してきたが、堰下流に対する影響もあることを踏まえ、上流側および下流側のそれぞれに応じた水質保全を意識して、今回のフラッシュ操作（試行）を実施していることを明確に説明すること。
- ・流動調査結果から、E地点（堰より下流2.2km）ではフラッシュ操作の影響が及んでいないと評価しているが、水質自動監視装置等の水質データからもその妥当性を検証すること。
- ・フラッシュ操作の効果が検証できるよう、フラッシュ操作を行っていない時についてもモニタリング調査を行うこと。
- ・フラッシュ操作時における堰上流の水質変化は、伊勢大橋地点のデータにより評価されているが、当該地点が堰上流全域を代表していることを整理・確認しておくこと。
- ・各種データ整理にあたっては、フラッシュ操作の運用方法や回数の経年変化の影響も考えられることを踏まえて整理すること。
- ・プランクトン調査結果については、種別で整理し、クロロフィルaと細胞数を

関連付けることで経年変化をより明確化するとともに、二枚貝のように植物プランクトンを餌とする生物との関係が把握できるようにすること。

- ・底生動物は有機物が多い環境を好む種、好まない種があることから、底質環境を把握できるように綱別ではなく種別で整理すること。
- ・河床変動への効果については、河川縦横断測定の経年変化等も考慮して整理すること。

以 上